

議 事 録

件 名	久留米市セーフコミュニティ再認証現地審査 自殺予防対策委員会	
日 時	平成30年7月30日(月) 17:00~18:10	
場 所	久留米シティプラザ4階 中会議室	
出席者	委 員	内村直尚委員長、大治太郎副委員長、別府委員、中島委員、俣野委員、峯委員、江頭委員、高田委員、田中委員、川口委員、藤島委員
	事務局	藤島課長、野口主査、秋山主査、山口、田中
欠 席 者	村田委員	
傍 聴 者	健康福祉部等 計20名	
次 第	<p>1. 開会</p> <p>2. 出席者紹介</p> <p>3. プレゼンテーション発表 「自殺予防の取り組みについて」(内村直尚委員長)</p> <p>4. 質疑応答</p> <p>5. 閉会</p>	
質 疑 審 査 員 ①	<p>すばらしいご報告ありがとうございました。完璧に近いものではないかと思えます。自殺は日本だけでなく世界的な問題です。WHOも自殺率の高さとうつは大きな健康問題だと認識しており力を注いでおります。そういう意味では、うつにアプローチをして、自殺率を減らしたということは、成功事例だと言えるのではないかなと思っています。</p> <p>韓国でも同様に、経済問題、家族問題、年齢では中高年男性が問題です。そして、昼間働いている人がハイリスクで、なかなか会えないので、ハローワークはいいアイデアです。</p> <p>(スライド17) かかりつけ医と精神科医の連携は、WHOのカイドラインで書かれているが、韓国では、精神科医にかかることが躊躇され、履歴に残ることが門をたたく事を遅くしています。そのため、薬局と連携して、抗うつ剤や睡眠剤を処方してもらっています。</p> <p>&lt;質問&gt;</p>	
審 査 員 ①	<p>(スライド6) 韓国では、高齢者の自殺死亡率が高くなっています。日本では、50歳代は人口が多いので、自殺死亡数が多いのか。さらに、自殺死亡率も高くなっているのでしょうか。</p>	
審 査 員 ②	<p>OECDの中で他国は高齢者が多いが、日本だけが、50歳代が多くなっている状況です。</p> <p>&lt;質問&gt;</p>	
委 員 ①	<p>(スライド31) 2022年自殺死亡率を15.1にした根拠は、国の自殺対策計画の目標値が、平成38年(2026年)で、13.0以下となっており、国の目標値に合わせて、自殺死亡率を設定しています。</p>	

議 事 録

審 査 員 ②	<p>すばらしい報告ありがとうございました。久留米市の自殺対策は成果を結んでおり、他の研究者にも教えていきたい。</p> <p>自殺対策は、家族へのアプローチが大切。自殺を思いつく時、強いシグナルがある。医者に行く前に、周囲が気づくことか大切。例えば、「自分のことを、ぞんざいな存在。ダメなんだ。役立たず」等と言う時期と言わない時期が周期的にあり、そのシグナルの波を捉えることが大切。それを捉まえると20%は減るのではないかと思う。</p> <p>アジアの文化が影響し、精神科を受診することは、タブー視される。かぜをひくと同じ。社会の受け止め方を変える。</p> <p>&lt;質問&gt;</p> <p>OECDでの10年間自殺調査では、退職後に自殺が高いのは北欧で、パラダイムシフトで10代が増加しています。自殺は、同居している人が多いのか、1人暮らしの人が多くなっているのでしょうか。</p>
委 員 長	同居している人が70%、1人暮らしが30%です。